

## 郷土摂津

第65号

平成15年9月1日

## いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課  
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

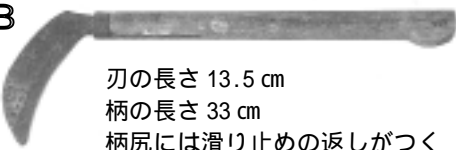
(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>

A



B



刃の長さ 13.5 cm  
柄の長さ 33 cm  
柄尻には滑り止めの返しがつく

## 農具

春夏

第6回

から見た 秋冬

鎌

稲刈りには、(A)のようなノコギリガマを

草刈りには(B)のような鎌を使いました。鎌

はときおり砥石で研がなければ切れ味が保て

ません。ノコギリガマは研がなくてもよく、初

心者でも差がでませんでした。ノコギリガマの

刃の面は湾曲していて、稲株を低い位置で刈り

取ることができます。またノコギリガマは消耗

品で軽くて安いものでした。稲作を伝えた弥生

人たちは、三日月形の石包丁で稲の穂を摘み取

っていました。古墳時代から鎌が出現します。

鎌は北方畑作系の農具といわれています。

早稲(わせ)と晩稲(おくて) 両者は「古今和歌集」や「和名類聚抄」に見られ平安時代には使い分けていたようです。早稲は成長が早く二毛作向き、そこでムギタ(麦田) ムギジ(麦地=乾田)では早稲、泥田では晩稲を作っていたようです。

## 広域連携事業 おおさか ふみんネット

## 三島ブロック

参加者募集! テーマ:「我が町~くらしと産業~」(全5回)

となりの街へでかけませんか!

11月5日(水) 1回

高槻の民窯「古曾部焼」と淀川の「くらわんか茶碗」  
会場:高槻市教育会館  
講師:大阪府文化財愛護推進委員 川崎 嘉夫 氏

11月19日(水) 3回

山の科学者「しいたけ作り50年」  
会場:島本町ふれあいセンター  
講師:しいたけ栽培指導員 新矢 繁次郎 氏

12月4日(木) 5回

江戸時代の吹田  
会場:吹田市民会館  
講師:吹田市立博物館学芸員 田口 泰久 氏

11月12日(水) 2回

銅鐸発掘から見える弥生人の暮らし  
会場:茨木市立文化財資料館  
講師:大阪国際大学教授 喜谷 美宣 氏

11月26日(水) 4回

力石と若者  
会場:摂津市立総合福祉会館  
講師:ふるさと摂津案内人 朝田 茂一 氏 林 健三 氏

応募方法 往復ハガキに住所、郵便番号、氏名、電話番号、返信用宛先を明記の上、生涯学習課まで。10月15日必着。多数の場合は抽選となります。

募集定員 100名(各市町20名)  
対象者 原則5回参加可能な方

参加費 保険料300円  
交通費は自己負担

## 石碑・顕彰札の紹介

## 摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】 摂津市鳥飼下三丁目 29 番地先

【設置年度】 平成 8 年度改修

### 活躍した渡し船・鳥飼の渡し

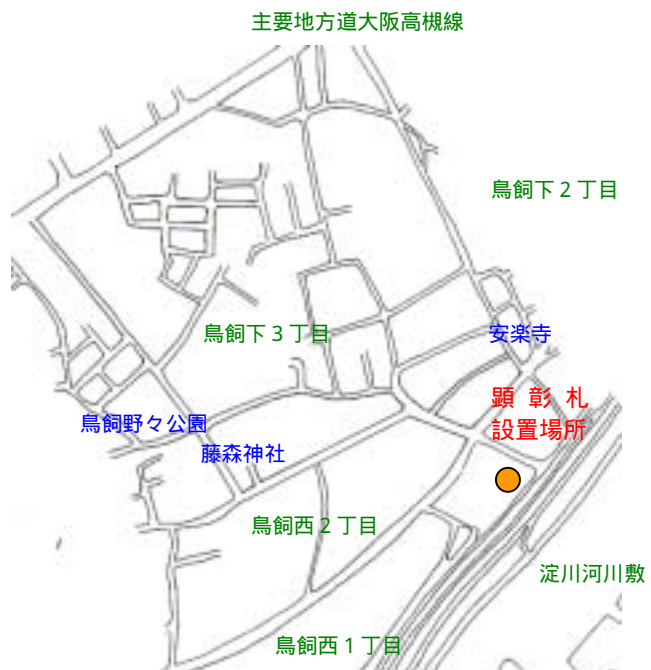
淀川の船は、上り下りの船だけでなく、「横渡し船」も活躍していました。対岸から対岸へと貨客を運ぶものでした。「鳥飼の渡し」は戦国時代末期頃まで歴史をさかのぼることができます。鳥飼には三本松（または願正寺）渡し、治歩多（じぶた）渡しがあり鳥飼西や鳥飼下と対岸の佐太村とを結んでいました。この二つの渡しが合併してできたのが鳥飼の渡しです。鳥飼の渡しは、大阪府が管理運営する最後の渡しとして、昭和 50 年 10 月 30 日まで運行していました。

慶長 19 年（1614）片桐且元が鳥飼の渡しを利用して大坂城から茨木城に去った話は有名ですが、おそらくこのあたりを渡ったものと思われま

顕彰札設置状況



鳥飼の渡し舟



## 第29回 埋もれた摂津市の歴史

### 摂津市から須恵器が出土

#### 蓋付高杯

旧味舌村西の口（現在の千里丘 4 丁目）から出土した須恵器。6 世紀前半。現在は奥田三男氏所蔵。



古墳時代になると、須恵器（すえき）と呼ばれる土器がつくられるようになります。須恵器以前の土器である縄文土器や弥生土器は野焼きの軟質の土器でした。これに対して須恵器は轆轤（ろくろ）でかたちづくり、窰窯を使って高温で焼いた硬質の土器です。この土器製作の技術は中国新石器時代の灰陶までさかのぼり、直接の源流は朝鮮半島南部で成立した陶質土器に求めることができます。この土器の出現は当時としては、革新的なもので貯蔵具、供膳具、調理具など多岐にわたり、平安時代まで生産・使用されます。